

ほつと連携

**第9号
2006**

平成18年9月1日
発行

◆発行／北見赤十字病院地域医療連携室広報部 北見市北6条東2丁目1番 ◆発行責任者／小澤 達吉
http://kitami irc.or.jp E-mail : renkei @kitami irc.or.jp



北見医師会会長就任挨拶

北見醫師會會長 古屋聖兒

今回、会員の皆さんに信任されて、北見医師会会長に就任いたしました。前任の番場敏行会長および役員各位の業績を引き継ぎ、新しい医師会活動の展開のために全力を尽くしたいと考えております。

その出発にあたり、私の考え方、目標と事業方針としてまとめました。それを2006年5月2日臨時理事会において提案し、理事の全員一致で承認されました。その内容を皆さんにお話したいと思います。

「存在感のある」..私たち医師会は、地域医療を守り充実するための職能集団であります。その役割を果たすためには、保健・福祉行政に対し、積極的に提言・提案する存在として活躍する必要があると考えます。

1. 理事会通信の発行 (2006.4~2007.3)

理事会長と会員との懸け橋として、理事会でどのような議論が行われ、どのようなことが決まったのか、毎月理事会通信を発行します。

市民が「いつでも、いいでも、誰でも」自由に医療機関にアクセスできるように、医療マップを作

3. 医師会財政の健全化 います。

4. 持続可能な医師会財政の将来予測を検討します。
市民建康まつりの参加と支援

活動を行います。そして、市民の健康を守るために活動二医師（は讀取的）参即、支援します。

これから、わが国の医療制度は大きく変化すると予測されます。国民皆保険を守る一方で、医療

政策は文部省の規制は必要で、各校は三つの医療制度（米国型、英國型、日本型）の学習・講演を行つてゐる。

⑥ 因発結音に関する講習会の開催
診療報酬③：1%減の影響を撥ね除けるために

四



医療安全管理室より

医療安全管理専任リスクマネージャー 但木英子

専任リスクリマネージャーとしての活動を開始してまだ数ヶ月ですが、提出されるレポート一枚一枚の情報を大切にし、部門間で事故事例や防止策を共有することで同様の事故の再発を防ぐこと、また防止策が現場で継続的に実践されていることの評価を行うことなどに力を注ぎ、患者の利益を最優先に考え、いわゆる「組織横断的な活動」という重責を果たしていくたいと思っています。

収集結果によりますと、事故当事者の職種別割合では、看護師が8割で、当院でも看護師の報告件数が9割を占めています。看護師の絶対数が多いこと、現場での治療・処置の最終施行者であることから、その理由ですが、インシデントレポートの内容から、業務の重積・作業の中止・連携不足・知識不足・未熟な技術などの関連要因が目立ちます。また、高齢化・認知症の増加による治療への理解不足などから、転倒・転落事故やチューブ類の抜去など、患者要因の事故も多発しています。看護部では、平成7年度より「看護部事故防止対策委員会」が看護職員への安全教育や事故防止マニフェアルの整備と遵守、インシデントレポートの集計・分析などの活動を行っており、病院の委員会・部会とも連携しています。

1999年に横浜市立大学付属病院で起こった手術患者取り違え事故以来、多くの医療事故報道の影響で、国民の医療に対する信頼が損なわれ、患者の知る権利と矢

また、平成16年度から、厚生労働省の「ヒヤリ・ハット事例収集事業」に協力し、全国のデータと自施設の比較が出来るようになりました。

「第7回オホーツク地域医療を考える会」を開催して

代表世話人 種 市 幸二



平成18年5月20日（土）ビツツアーケホテルにて第7回「オホーツク地域医療を考える会」が開催されました。地域医療に感心のある医師、薬剤師、看護師、コメディカル、事務職等医療従事者158名が参加し、活発な討論が行われ、盛会裏に終わることができました。主催者として参加した皆様に感謝申上げます。また、今回より歯科医師、薬剤師、臨床検査技師、看護師、MSW、OT、PT、ST、介護福祉士の方々も当会の幹事として参画していただき、本会の運営にご尽力いただきました。ありがとうございました。

ワークショップでは、「地域で他職種が関わった実践事例報告」として新しい幹事の代表として三浦看護師、谷口保健師に報告していただきました。

三浦氏は高齢で在宅希望のケース、悪性腫瘍にて最後まで在宅を希望しているケース、悪性腫瘍で在宅で看取ったケースの3例の実際例を報告し、医療連携および地域と家族のかかわりの重要性を提示していました。

また、谷口氏は医療依存度の高い患者様の退院調整として病院における在宅準備、訪問看護師との連携、退院後の在宅準備の調整に関して具体的に示しました。

病床から在宅医療への転換という時代に合わせて参考になった事例だったと思います。

また、北見赤十字病院からお知らせとして「第8回オホーツク地域医療を考える会」の開催情報を掲載します。

この会は、特に熊本市の菊南病院の室原良治先生の特別講演が印象に残りました。この講演では慢性期病院から見た地域医療連携の

ステムとして2人主治医制を視野にいれた内容を報告しました。まずは、画像からスタートですが、登録医の先生におかれましてはご利用いただければ利便性がすぐにわかりますので是非よろしくお願ひいたします。

特別講演は「慢性期病院から見た地域医療連携」利用者中心の連携」と題して、熊本県の医療法人室原会 菊南病院 院長 室原良治先生に講演していただきました。その中で慢性期病院は急性期病院と回復期病院の橋渡し役で寝たきりを作らない最も重要な役割を担つてると強調していました。さらに、脳卒中など慢性期病院が中心となる地域連携のキーワードは利用者中心、ハブ機能（24時間対応）、地域の生命に責任を持つを提示され、連携の意識の高さに感銘を受けました。

当病院は地域医療支援病院として地域住民や医師会の先生達に信頼される地域医療連携を一步一步進めて参る所存であります。

最近の逆紹介率は75%と高く、安定した患者様を

地元の医療機関への逆紹介、紹介患者様は元の医院・病院へ戻すことを基本に地域医療連携を進めている所であります。

地域医療連携を進める所であります。

それはもう古い昔の事です。北大小児科の研究室に夜電話が架かってきました。北見日赤の小児科を担当されていた藤井先生が開業され、後任を出張医でつないでいたのですが、気心のわかつた私に早く赴任して欲しいとのことです。後に教授と成られた先輩にご相談しましたら、北見日赤は看護学校もあり、症例も多く経験にもなるからと薦められて決心、北見にやつて参りました。当時医局の慣習として長期赴任の時は、札幌駅に教授以下医局員、婦長以下詰め所一同が見送るに来て送別してくれました。大きい責任を背負つて出発、昭和40年10月の事です。

木造2階建て、クラシックな雰囲気の漂う病院でした。川島院長を始め医師十数名。食堂は2階の食堂で皆で一緒にとり、終わると「中国文化研究会」と称し院長以下医師、薬室、検査室、調理、暖房まで麻雀のできるものが集まり和気藹々卓を囲んだものです。これはとても大切な場で、それぞれ顔見知りとなり、性格もわかり、診療上の連絡の密となる場でした。

小児科外来が100名を越えたら医局から応援を出すとの約束で来ましたので初めのうちインター生が、そしてその後将来北大医局を担うそつそつたる若手医師が来てくれました。地方会の演題となる症例には事欠かず、Wiskott Aldrich 症候群は当時まだネルソンの教科書にも記載無く、後の小林邦彦教授が免疫に興味を抱く引き金となつた症例でした。

当時マイカーを持つ医師は数名、それに分乗し一泊旅行に出かけたりもしました。多忙ではありましたがあれ強しがいのある病院でしたが、北斗町の官舎に夜直接診療を求めて患者さんが来られるようになり、聴診器も自宅にはなく病院に出かけるということが続くなりました。勤務医はたとえ給料が安くても、



医療法人社団
わだ小児科医院
和田 惟敬

症例に恵まれ、そこから臨床の研究が出来る環境があり、学会発表、論文を残すことが出来ることという自分なりの考えを持っていました。そしてヒポクラテスのものはヒポクラテスへと紹介された患者さんは前医へ診療報告書とともに返すようにつとめました。当時「内科小児科」標榜の医院が殆どであったからです。私の心の中で病診提携の考えが芽生えていたのでしょう。

昭和43年10月「わだ小児科医院」を開設、以来今日まで北見日赤に足を向けて寝れません。診療情報提供書を持参して患者さんを北見日赤にお願いしない週はありません。勤務していたときは他の多くの方のバックアップで自分の力を發揮できましたが、個人になりますと無理な診療をすると大きな落とし穴が待っています。

開院してからも日赤の出張の先生と藤井先生をお誘いしてしばらくの間、日赤の外来に出向いて抄読会を月に一回続けました。途中しばらくお休みして、現在第一火曜日に抄読会を続け180回を数えます。そして日赤小児科の先生と市内の小児科の先生と緊密な連携の場と成っています。医師は生涯勉強と考えております。私は小児科に直接関係のない講演会、日赤の検討会等を聽講するように心がけております。

何か新しい発想を与えてくれます。またそればかりでなく先生方を知ることができます。「病診連携」はお互い顔の見える連携だと思います。

結びとして論語の一節「子曰く、学びて時にこれを習う。また説ばしからずや。朋遠万より来るあり。また樂しからずや。人知らずして懼ひず。また君子ならばや」。



整形性股関節症が主で、診断を確定し保存的治療を行っております。

外科学的治療は患者さんの希望にもあります。日赤病院整形外科の御協力を得ております。股関節周囲の疾患につきましては、先天性股関節脱臼（L·C·C）は少なくなり外来にて子供さんの声を聞く事が少くなりました。

変形性股関節症も疾患として少なくなつております。

ただ、半月板損傷等は、札幌市北新病院青木喜満先生の御協力を得て、手術を行つております。

上肢の疾患については、自分の専門分野であ

り伝達麻酔も可能で、自分で手術を行つよう

心掛けております。

主に外傷、肘管症候群、手根管症候群、腱

の縫合剥離等を行つております。

さて地域支援病院と登録医の問題ですが、

以上のような状態で日常診療を行つておりま

すが、たんだん手術をしない整形外科になつ

てきたのも事実です。

さて地域支援病院と登録医の問題ですが、

以上のような状態で日常診療を行つておりま

すが、たんだん手術をしない整形外科になつ

てきたのも事実

禁煙外来のお知らせ



平成18年度・第1回 糖尿病教室を実施しました

医療社会事業部副部長 寺崎多加子

昨年に引き続き、今回も6月25日の日曜日に開催いたしました。

皆様にポスター掲示をお願いしている状況ですので、今後とも宜しくお願ひいたします。

タバコをやめたいのに止められないのは意志が弱いのではなくタバコ依存症になつてゐるのです、タバコ依存症とは「ニコチ

タバコをやめたいのに止められないのは、意志が弱いではなくタバコ依存症になっているため、タバコ依存症には『ニコチン依存症』と『心理的要因』の2つの要素毎日開いております。禁煙外来での具体的な流れは、まず保険給付の対象者のスクリーニングをおこないます。

があると考えられています。
喫煙の害に関しては、ある程度いろいろ
なところで見聞きすることは以前よりある
と思います。喫煙の具体的な疾患は肺
具体的には、1. 直ちに禁煙をしようと
考へている 2. 一二コチン依存症のスク
リーニングテスト TDS (Tobacco
Dependence Scale) で

【禁煙治療の概要説明】
2006年4月から禁煙治療が
保険適用されることとなりました。
これは喫煙を単なる習慣や嗜好と
考えるのではなく、「ニコチン依
存症」という病気としてとらえ、

必要な治療を行うという考え方からです。治療は一定の条件を満たした喫煙者なら、どなたでも受けすることができます。

血糖の自己測定のビデオ上映 小冊子、リーフレットなどを用意。

定の実演や運動療法、糖尿病に関連するフレットの配付もい
主開催の目的は、患者関係者が糖尿病についてのビデオ上映もしたがそれを見るために来た方はいなかつた。

3、講演が始まる前に、運動療法の実演が行われた。ではなかつた。

4、講演前後に実施された血糖測定。

り替えて使用す
る知識を共有する学術の場と
考えており、今回も臨床検査技師
の方の参加がありましたことは嬉
しいことでした。

測定も、希望者は少なかつた。院内講師さへポスター掲示を見なかつたようなので、PCR不足か?

ります。
す。
いさいものに切り
出席者が少ないことは、研修開催の意義を再検討する時期ではないかと考えますが、アンケート結果では受講の希望はあるので、内

出席者が少ないと、研修開催の意義を再検討する時期ではなかると考えますが、アンケート結果では受講の希望はあるので、内容を再検討し小規模ながらもう少し続けていきたいと考えています。開催のお知らせは、各医療機関の

次回に向けて
1、アンケートによれば、毎回同じ内容でなければ受講したいとの声があるので内容の検討が必要と考える。
2、次回も受講したい方が12名いるので要望があり、継続する

井田 垣希子
柴田 祐美子
野見山 豪
: 50)
いたします。
をお渡し致しまして
最後の時間に
し出お願い致します。
連携室
丁目
0-018-599

初診時には初診時特定
院内の費用合計
※ 10月から4月まで

薬について
薬は禁煙のための補助
「ニコチンパッチ」にて
* 1日1枚皮膚にはり
* 皮膚からニコチンが
* 一定期間おきながら
な使用方法です。
* ニコチネルTTSの



受講教室の

日時: 平成18年6月25日
午前10時~11時30分
北見赤十字病院 東

内 容

わかる糖尿病
家庭療養指導士(臨床検査技師)
食は健康食。はじめてみましょ

糖尿病療養指導士（管理栄養士）
ある生活 糖尿病療養指導士（看護師）
による失明を防ぐために 眼科部長
医療のビデオ上映（9：30～9：45）
モデルの展示
自己測定（演習）
は「何でも相談・質問箱」を準備
際、質問ある方は〔質問箱〕
下さい。投函して頂きますと
返しますのでどうぞ、遠慮なく申
要講料無料
北見赤十字病院 地域医
〒090-8666 北見市北6条東2丁目
TEL0120-018-2999 FAX0120-018-2999

糖尿病教室のご案内

日時：平成18年6月25日（日）

午前10時～11時30分

場所：北県赤十字病院 東4階 大講堂

内 容

- ①検査でわかる糖尿病
糖尿病療養指導士（臨床検査技師） 石澤 美由紀

②糖尿病は健康食。はじめてみましょう。
糖尿病療養指導士（管理栄養士） 食事療法 井田 亜希子

③糖尿病のある生活
糖尿病療養指導士（看護師） 柴田 祐美子

④糖尿病による失明を防ぐために
眼科部長 野見山 豪

- ◆運動療法のビデオ上映(9:30~9:50)
- ◆フードモデルの展示
- ◆血糖自己測定(実演)
- ◆当日は「何でも相談・質問箱」を準備いたします。
受付の際、質問のある方は「質問紙」をお渡しいたしますので
お申し出下さい。設置して頂きます。

お問い合わせは、お電話にてお問い合わせください。

北見赤十字病院 地域医療連携室
〒090-8666 北見市北6条東2丁目
TEL 0150-810-888 FAX 0150-810-750



図1

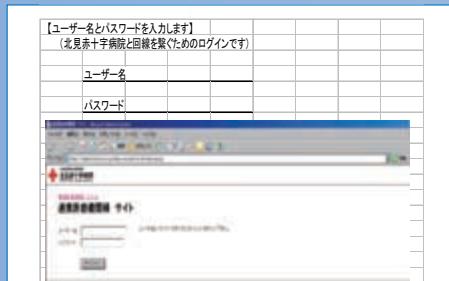


図2

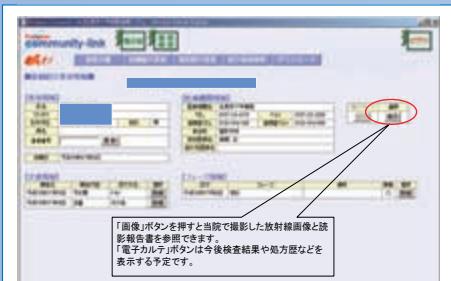


図4

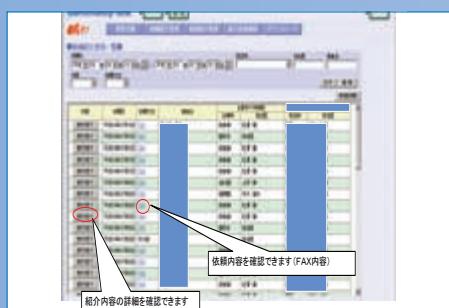


図3



図5

インターネットによる 「医療情報システム」 へのアクセス

地域医療連携室長 林 浩 幸

昨年12月より、病院連携システムを導入し、紹介患者様の予約等を適切に行う業務を進めて参りました。さらに地域医療連携を図るために、今回、登録医療機関様にインターネットを介して、病院連携システムにアクセスして頂き、紹介、逆紹介患者様に係わる、画像・検査データ等を参照して頂く事が可能となりました。（図1）。登録医療機関様には、インターネットを利用できるWindows2000・XPのパソコンをご用意して頂ければ、当院より職員が訪問し、設定・説明をさせて頂きます。設定費用は無料です。

使用して頂くイメージは、パソコンにアイコンを設定させて頂きますので、そこから、お渡しするユーザーネーム・パスワードでログインして頂きます（図2）。次に、病院連携システムより、患者様を検索して頂き（図3）、患者情報の画面で、画像・検査データー等を選択して頂くと（図4）、画像・報告書を診て頂く事が出来ます。（図5）。今後、連携医療機関の皆様に利用のご案内をさせて頂きますので、よろしくお願い致します。

この度、感染症対策委員会の企画で、臨床検査技師による『感染対策の豆知識』と題して学習会がありました。参加者は院内・外を含めて百三十人ほど集まり、企画した委員会としては、参加者が多く嬉しく思っています。参加者の皆様お疲れ様でした。

主な内容は細菌の繁殖の条件、菌名の読み方、感受性試験の結果の読み方、実際の培養のスライド、血液培養の望ましい採血方法などです。その一部を紹介していきたいと思います。

細菌繁殖の条件は温度、酸素、栄養素などがあります。細菌が増殖する可能な温度は、0°C~80°Cまでと範囲は広く、その中でも病原細菌は中温細菌が多く、その至適温度は30°C~37°C程度だということでした。正にこの季節が細菌の大繁殖のために良い季節であるということです。又、人の体温は細菌の温床になるということです。特に環境菌といわれるセラチアやアシネットバクターは今の季節に元気よく、水回りなどに増殖しやすい細菌です。

水回りの整理整頓や清掃、患者様の清潔の援助など看護師の腕の見せ所もあります。

薬剤感受性試験の結果の読みかたは、S(感性)『効きそう』、R(耐性)『効かないだろう』といった日常的な解りやすい表現を交えながらの説明で、検査結果にアレルギーを起こさずに興味を持つる様になつたのではないかと思います。

ショックだったのは駆血帯の培養や、流し台の中の培養結果で、細菌がいるとは思っていましたが、培養という形で明らかにされると、ソッとしてしまいました。逆に納得した結果は、環境菌は水の中では、長期生存すること、黄色ブドウ球菌に擦式消毒剤を混ぜて培養するとコロニーが発生しなかつたことを確認できたので、器具器材の乾燥の必要性や、擦式消毒剤の必要性を実感する事が出来ました。

日常の業務に追いやられる毎日ですが、ひとつひとつ行動でエビデンスを持って取り組みたいと、更に心に誓うのでした。

感染対策の豆知識の勉強会を終えて

感染症対策委員
古田 英子

登録医療機関・登録医の先生方には生涯教育、知識向上に役立て頂くために病院図書室を開設しています。図書室を先生方にもっとご利用頂きたく、ご利用方法を案内させて頂きます。

II 登録医の図書室ご利用について

ご来院の際に、必ず登録医証をご持参下さい。

図書室のご利用時間

休日：8時30分～17時10分まで

平日：8時30分～22時まで

時間外は17時10分～22時までとなっております。時間外・休日にご利用の際は、必ず連携室に連絡の上、来院時、事務の日・当直者にお申し出下さい。ご案内いたします。

図書室には担当の事務のものがいますので閲覧したいものがあればお申し付け下さい。文献はコピーする事もでき、コピーの費用は無料となっております。尚、貸出はしておりませんのでご承ください。

ご来院の際は駐車券に印を押しますのでお申し出下さい。無料の扱いとなります。

今回、「2006年度 受け入れ雑誌一覧」を別紙として入れてありますので、ご連絡いただ際、お申し付けいただければ事前に用意しておきます。

雑誌以外の文献もありますのでご確認下さい。

この度、感染症対策委員会の企画で、臨床検査技師による『感染対策の豆知識』と題して学習会がありました。参加者は院内・外を含めて百三十人ほど集まり、企画した委員会としては、参加者が多く嬉しく思っています。参加者の皆様お疲れ様でした。

主な内容は細菌の繁殖の条件、菌名の読み方、感受性試験の結果の読み方、実際の培養のスライド、血液培養の望ましい採血方法などです。その一部を紹介していきたいと思います。

細菌繁殖の条件は温度、酸素、栄養素などがあります。細菌が増殖する可能な温度は、0°C~80°Cまでと範囲は広く、その中でも病原細菌は中温細菌が多く、その至適温度は30°C~37°C程度だということでした。正にこの季節が細菌の大繁殖のために良い季節であるということです。又、人の体温は細菌の温床になるということです。特に環境菌といわれるセラチアやアシネットバクターは今の季節に元気よく、水回りなどに増殖しやすい細菌です。

水回りの整理整頓や清掃、患者様の清潔の援助など看護師の腕の見せ所もあります。

薬剤感受性試験の結果の読みかたは、S(感性)『効きそう』、R(耐性)『効かないだろう』といった日常的な解りやすい表現を交えながらの説明で、検査結果にアレルギーを起こさずに興味を持つる様になつたのではないかと思います。

ショックだったのは駆血帯の培養や、流し台の中の培養結果で、細菌がいるとは思っていましたが、培養という形で明らかにされると、ソッとしてしまいました。逆に納得した結果は、環境菌は水の中では、長期生存すること、黄色ブドウ球菌に擦式消毒剤を混ぜて培養するとコロニーが発生しなかつたことを確認できたので、器具器材の乾燥の必要性や、擦式消毒剤の必要性を実感する事が出来ました。

日常の業務に追いやられる毎日ですが、ひとつひとつ行動でエビデンスを持って取り組みたいと、更に心に誓うのでした。

地域医療支援病院
北見赤十字病院
『理念』
人道・博愛に基づき、患者様を尊重した医療を提供し地域の期待と信頼に応えます。

『基本方針』

- 急性期医療を担う病院として、「救命救急医療」を積極的に展開します。
- 患者様の諸権利を尊重した同意と説明を基に診療します。
- 患者様・地域住民のご意見を尊重し、病院の改善に努めます。
- 災害救護活動・赤十字救急法等の普及活動を通じて、社会に貢献します。
- 地域医療支援病院として、地域医療施設と連携し地域医療の充実に貢献します。

『患者様の権利』

わたし達は患者様の権利を尊重し、十分な説明と同意に基づいた医療を行ないます。

- 誰もが、良質な医療を平等に受ける権利があります。
- 誰もが、一人の人間として尊厳される権利があります。
- 誰もが、わかりやすい言葉や方法で、十分な説明を受ける権利があります。
- 誰もが、自らの意思で医療行為を選択する権利があります。
- 誰もが、プライバシーを厳格に保護される権利があります。



図書室の利用案内

外来ご案内

診療科目

- 内科
- 消化器科
- 精神神経科
- 循環器科
- 小児科
- 外科
- 整形外科
- 形成外科
- 脳神経外科
- 皮膚科
- 泌尿器科
- 産婦人科
- 眼科
- 耳鼻咽喉科
- 放射線科
- 麻酔科

休診

- 土曜日 ●日曜日 ●祝日
- 12月29日～1月3日
- 5月1日（日本赤十字社創立記念日）

事前予約について

紹介状を持参される患者様につきましては、患者様の受診希望日時を事前にFAXにて予約診療のお申込みいただきますと、診察当日、待ち時間が短縮されます。

ぜひご利用願います。
(但し、急患の場合は各科へ直接連絡願います。)

地域医療連携室

取扱い時間：午前 8:30～午後 5:00
(月曜日～金曜日)

Fax フリーダイヤル
0120-018-599
Tel フリーダイヤル
0120-018-299

診察カード

診察券は全科共通で使用いたします。
ご来院時に必ずお持ちください。

保険証

健康保険証はご来院時に確認させていただいております。
特に、更新・変更の際は必ずご提出ください。

北見赤十字病院 診療一覧表

* 都合により担当医が変更になる場合があります。

平成18年5月24日現在

診 療 科		月	火	水	木	金	
内 科	午 前	田中	田中	田中	工藤	田中	
		山根	山根	種市	山根	山根	
		種市	浄土	浄土	種市	種市	
		浄土	田村	田村	浄土	松本	
		田村			田村		
消化器科	午 後	検査・予約診療・急患診療のみ					
		渡邊	森	石田	渡邊	森	
		上林	山本	上林	山本	石田	
		下立			下立		
		検査・予約診療・急患診療のみ					
循環器科	午 前	穴田	中川	穴田	中川	中川	
		乗安	吉谷	乗安	乗安	吉谷	
			工藤	中川	工藤		
		検 査					
		午 前	塚本	嶋田	横溝	嶋田	
精神神経科		再来	横溝	横溝	塚本	横溝	
午 後	予約・急患診療のみ						
	三河	小林	三河	小林	三河		
	小林	三河	小林	三河	小林		
	小林	三河	三河	那須・兼次	三河		
小児科	午 後	那須	那須・植田	小林	斎田	小林	
		斎田		斎田		斎田	
	午 前	須永	村上	池田	新里	小澤	
		再来	村川	新里	須永	芦立	
		村川	村上	須永	池田	村上/村川	
外 科	午 後	血管外科		佐久間			
		菅原					
		高橋	森井	森井	林	高橋	
		松尾	佐々木	林	佐々木	松尾	
		林	手術	手術	(伊藤【隔週】)	森井	
整形外科	午 前	予約検査・手術 3ヶ月児股脱臼					
		午 後	手術	手術	手術	予約検査・手術	
	午 前	本間	手術	大谷	(出張医)	本間	
		本間			本間		
		大谷			大谷		
形成外科	午 後	大谷	手術	本間	手術	本間	
				大谷			
					予約検査		
						大谷	
脳神経外科	午 前	鈴木	苦米地	鈴木	苦米地	山本	
		午 後	予約診療 急患診療	急患診療のみ	予約診療 急患診療	急患診療のみ	
皮膚科	午 前	伊部	伊部	伊部	伊部	伊部	
		飛澤	飛澤	飛澤	飛澤	飛澤	
		伊部	手術	伊部	伊部	手術	
		飛澤		飛澤			
泌尿器科	午 前	藤井	藤井	藤井	藤井	藤井	
		本谷	本谷	本谷	本谷	本谷	
		芳生	芳生	芳生	芳生	芳生	
		検査	手術	手術	手術	検査	
産婦人科	午 前	水沼	水沼	倉橋	郷久	水沼	
		倉橋	郷久	佐藤	大屋	佐藤	
		郷久	佐藤	大屋	水沼	倉橋	
		手術	検査・母親学級	手術	1ヶ月健診・検査	手術	
眼科	午 前	竹田	野見山	手術	竹田	野見山	
		池	池			池	
		竹田	予約検査 手術	予約検査 手術	予約検査 手術	竹田	
		池				池	
耳鼻咽喉科	午 前	金井	和田	金井		金井	
		和田	石田	石田		和田	
		小林	小林	小林		石田	
		予約診療	手術	手術	手術	予約診療・手術	
放射線科	午 前	有本	有本	有本	有本	リニアック治療中の 患者診療のみ	
		午 後	急患診療のみ				
麻酔科	午 前	ペインクリニック	佐藤	佐藤	佐藤	佐藤	
		麻酔術前診察	荒川	荒川	荒川	荒川	
		ペインクリニック	佐藤	佐藤	佐藤	佐藤	
		麻酔術前診察	荒川	荒川	荒川	荒川	



「院外処方箋FAX機」